

令和元年11月22日

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一原子力発電所
所長 磯貝 智彦 殿

福島第一原子力規制事務所
統括原子力運転検査官 小林 隆輔

安全文化・組織風土劣化防止に係る取組の総合評価について

平成30年4月1日から平成31年3月31日に行われた、福島第一原子力発電所における安全文化醸成活動については、以下のとおり評価しましたので通知します。

記

【総合所見】

安全文化・組織風土の劣化防止に係る取組については、「平成30年度安全文化醸成活動計画」に基づき計画どおり「Traitsの振り返り活動」「不適合(ヒューマンエラー)低減に焦点を絞った安全文化の醸成(安全事前評価におけるリスク検討)(MOによる気づきに基づく安全コミュニケーションの強化)(GMの研修等の講師実施)(不適合の起票、計画立案／ロードマップの作成、処置完了期日の遵守による早期解決)」を実施し、また検査官要請事項である「事故・故障等の未然防止に取り組む組織」及び「良好なコミュニケーション」に対して、管理職が現場へ出向する回数を増やし、対話によるコミュニケーションを図っていること、また、不適合の期日管理強化策を実施し、是正処置の期限内完了率等が改善方向であることから「計画に基づいた取組が行われ、改善傾向が見られる。」と評価する。

また、安全文化・組織風土の劣化兆候については、高グレードのヒューマンエラーによる不適合発生件数は前年度より減少した(NG I ; 8件→2件、NG II ; 38件→30件)ものの高グレード以外のヒューマンエラーによる不適合発生件数は前年度より増加(NG III ; 60件→92件)した。また、事前リスク検討不足による不適合事象は継続して発生しており、「さらに傾向を見るため継続した監視を必要とする。」と評価する。

以上